

授業の反省

- ・小集団のコミュニケーションは、交流する相手との距離が近いこと、話しやすいことを考えると、この取り組みは有効であった。
- ・子どもたちが興味・関心のある異文化を持つ方々との交流ということで、とても積極的に取り組むことができた。
- ・今回の国際交流では、事前に異文化を持つ方々との連絡や学習の意図を伝えることができなかった。

仮説1 に関わって

身近な物事に目を向け、地球的視点で見つめ調べることによって、自分と世界とのつながりを感じ、様々な問題を自分との関わりとして捉えることができるだろう。

- ・自分と異文化を持つ方々との違いばかりでなく、共通点についても子どもたちが感じることができたのは良かった。
- ・この交流から、他の文化にも興味をもつ児童が増えた。例えば、チリ・アイスランド エジプト・メキシコに興味をもつ児童がいた。食べ物や世界遺産などを調べたいということから、何かの機会に調べ学習などに取り組みしてみたい。
- ・1学期から地図帳を広げて学習をする活動を取り入れてきた。世界の国の位置や日本からアメリカへの最短距離を測る学習を通し、日本から様々な国を見比べたり測ったりするようになってきた。そういう意味では、世界へと目を向けようとする児童が増えてきたように思える。

仮説2 に関わって

言葉の学び（外国語活動）を通し、お互いを尊重する態度を育てることで、進んでコミュニケーションを図ろうとする子どもが育つだろう。

- ・異文化と触れ合おうとする子どもたちの意欲が感じられた。
- ・互いの歩みにより、言葉が違っていても、理解しようとしていた。
- ・異文化の方からの質問に対し、子どもたちの考えや気持ちを相手に伝え、理解してくれたことは子どもたちにとって大変励みになった。
- ・異文化の方々たちから子どもたちへ、もっと質問させる場面があったり、その国の文化や遊びを教えてくれたりする場面があっても良かった。